

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 2 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

◇高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- H24/1/17 18:42 セシウム吸着装置を起動。18:45 定常流量に到達。
- H24/1/29 12:06 第二セシウム吸着装置を起動。12:18 定常流量に到達。
- H24/2/2 8:36 第二セシウム吸着装置において、処理流量に低下傾向が見られることから、フィルタの洗浄を実施するため、同装置を一時停止。その後、11:12、同装置を起動。11:15、定常流量(約 36m³/h)に到達。
※今後もフィルタの洗浄を計画的に実施する予定。

[貯蔵設備]

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

◇トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元→移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/30 16:05～ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/30 16:12～ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋→仮設タンク	・2/2 10:00～16:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (2/2 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位:O.P.+ 3,860 mm(水位上昇累計:5,077 mm) 2/1 7:00 から 180 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位:O.P.+ 3,024 mm(水位上昇累計:3,750 mm) 2/1 7:00 から 360 mm 上昇

◇トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (2/2 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P.<+ 850 mm (2/1 7:00 と同じ)	O.P.+ 2,802 mm (2/1 7:00 から 16 mm 上昇)	O.P.+ 4,271 mm (2/1 7:00 から 23 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 3,054 mm (2/1 7:00 から 2 mm 下降)	O.P.+ 3,028 mm (2/1 7:00 から 2 mm 下降)	O.P.+ 3,196 mm (2/1 7:00 から 2 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,011 mm (2/1 7:00 から 7 mm 下降)	O.P.+ 2,921 mm (2/1 7:00 から 11 mm 下降)	O.P.+ 3,219 mm (2/1 7:00 から 14 mm 下降)
4号機	—	O.P.+ 2,937 mm (2/1 7:00 から 4 mm 下降)	O.P.+ 2,957 mm (2/1 7:00 から 15 mm 下降)

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約30m	2/1	8:35	ND	0.07	0.05
福島第一 1~4号機放水口南側約330m	2/1	8:15	ND	0.02	0.03
福島第二 1,2号機放水口南側約7km	2/1	8:00	ND	ND	0.02
岩沢海岸沖合3km 下層	1/31	9:00	ND	0.02	0.01

- その他福島県沖合9地点(1/31採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全てND。なお、福島県沿岸1地点は、悪天候のため採取中止。

<使用済燃料プールの冷却> (2/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*1	15.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	12.6 °C
3号機	循環冷却システム	運転中*2	20.9 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	29 °C

*1 システム二次系エアフィンクーラー:停止中, *2 システム二次系冷却塔:停止中

【2号機】・1/19 11:50~ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

【3号機】・1/14 15:18~ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (2/2 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.8m ³ /h, 炉心スプレイ系:約1.9 m ³ /h)	24.0 °C	24.4 °C	104.8 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約3.0m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.0 m ³ /h)	45.8 °C	52.9 °C	111 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約3.0m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.0m ³ /h)	41.5 °C	51.4 °C	101.6 kPaabs

【1号機】・2/2 10:35 原子炉注水の信頼性向上をはかるため、高台炉注水ポンプの注水ラインのうち、給水系配管に接続するラインのポリエチレン管への引き替えが完了したことから、給水系からの注水について、タービン建屋内炉注水ポンプから高台炉注水ポンプへ切替を実施。

15:15 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約4.2m³/hから約4.5m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約1.5m³/hから約2.0m³/hに調整。

【2号機】・2/2 10:55 原子炉への注水量について、給水系からの注水量を約3.9m³/hから約3.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約5.1m³/hから約6.0m³/hに変更*。

15:15 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約2.5m³/hから約3.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約5.2m³/hから約5.5m³/hに調整。

【3号機】・2/2 11:10 原子炉への注水量について、給水系からの注水量を約3.8m³/hから約3.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約5.2m³/hから約6.0m³/hに変更*。

15:15 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約2.5m³/hから約3.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約5.2m³/hから約5.5m³/hに調整。

※原子炉注水の信頼性向上に伴う高台炉注水ポンプの注水ラインについて、ポリエチレン管への引替が完了したことから、段階的に原子炉への注水量をについて変更しているもの。

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

<その他>

・H23/10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を継続実施中。

・H24/1/11~ 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)間のトレンチにおける放射性物質を含む水溜まりの発見(H23/12/18)を受け、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始。

※日々の点検結果については別途参考配布資料を参照

・H24/1/31 22:30 頃 4号機原子炉建屋1階にあるジェットポンプ計装ラック内の計器テストラインからの漏えいを確認。

22:43 計装ラックに繋がる元弁を閉めたことにより、水の漏えいは停止。床面は瓦礫が散乱した状態であり、漏れた水の量は確認できた範囲で約6リットル。なお、原子炉建屋外への流出はなし。テストライン内の水を採取し、放射能濃度を測定した結果、漏れた水は原子炉ウェル水と推定。その後、スキマサージタンク水位の低下量から、漏れた水の量は8,500リットルと推定。

2/2 15:20 4号機原子炉建屋のパトロールを実施していた当社社員が、原子炉建屋1階北西コーナーで鉛筆芯1本程度の水が流れ出ていることを確認。漏れは原子炉ウェル補給水ラインからと思われ、当該システムの原子炉ウェルへの弁は全閉になっており、原子炉ウェル内からの水の漏えいではないと思われる。現在、詳細を調査中。なお、原子炉建屋外への流出はなし。

・H24/2/1 2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、当該システム入口でキセノン135が検出限界値(9.5×10⁻² Bq/cm³)未満であり、再臨界判定基準である1Bq/cm³を下回っていることを確認。

・H24/2/2 昨日(2/1)に本資料にてお知らせした以降、2/2 15:30 迄に新規で確認した水漏れは以下の通り。
・ろ過水を純水化する水処理建屋内の配管(排水ライン)の2箇所(2/2 15:30 頃発見) ろ過水*:約0.5リットル
※ろ過水:ダムより取水した水